

6 これから木造住宅を建てる人に

～これだけは知っておきたい～ 10のポイント

1 地盤

これから家を建てる場合、まずよい地盤の敷地を選ぶことが重要です。地盤の状況によって被害にも大きな差が生じます。あらかじめ地盤調査を行ったり、付近の人や昔から住んでいる人などから情報収集することが大切です。

崖崩れ、土石流、津波、洪水などで被害を受けるおそれのある敷地は避けることが大切です。次のような地盤はできるだけ避け、もし建てる場合は基礎や建物を強固にしましょう。

軟弱地盤

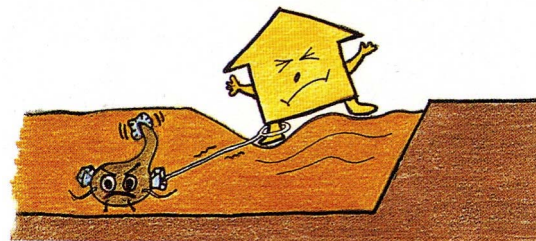
三角州や河川沿いの柔らかい土が堆積した場所で、地震のとき木造住宅は大きく揺さぶられます。



液状化を起こしやすい地盤

粒径が均一な砂質系地盤で水位の高い場所は、液状化現象が起こる可能性があります。このような敷地の場合、鉄筋コンクリート造のべた基礎にすることが有効です。

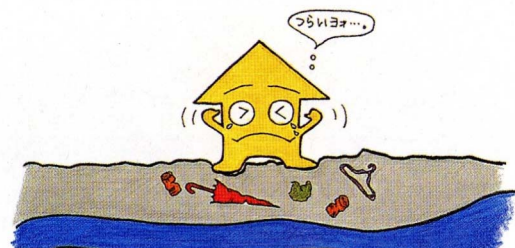
液状化現象—水を多く含んだ砂地盤が揺さぶられて、液体のようになる現象で、地盤沈下や噴砂を引き起こします。



埋立て地盤

沼、水田、湿地、旧河川跡地、谷、海岸などを埋めた場所。

地震時に揺れやすく、地割れを生じたりして、建物が足元から壊れる恐れがあります。



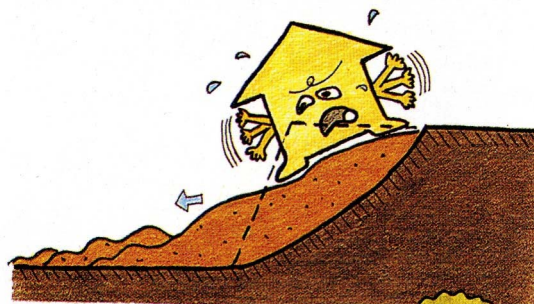
山地や丘陵地

山地や丘陵地などを造成した土地（特に盛土）は、不同沈下や地滑りを起こすおそれがあります。

造成後、少なくとも1～2年経って、盛土がよく締まってから建築しましょう。

また、擁壁と基礎の両方をしっかりとしたものにする必要があります。

不同沈下—建物の基礎の沈下が一様でなく、場所によって異なった沈下量を示すことをいいます。



崖の近接地

崖上では、地盤に亀裂、崩壊といった危険があり、崖下では、土砂崩れや擁壁倒壊のおそれがあり、建物が押しつぶされる危険があります。

しっかりした擁壁を造るか、崖からできるだけ離して建築しましょう。

